



※※子宮頸がんワクチン※※

近年、子宮頸がんは20～30代と若者に多くみられ、日本では年間約1万人が罹患し、約3,000人が死亡しています。若い子どもを残して亡くなる患者もいるため、別名「マザーキラー」とも呼ばれています。治療により命が助かって、手術の影響で妊娠できなくなったり、排尿障害や下肢のリンパ浮腫など後遺症が残ったりすることもあります。

子宮頸がんの原因の多くは、ヒトパピローマウイルス（HPV）です。HPVは、性交渉により女性の約80%が生涯に一度は感染するごくありふれたウイルスです。感染しても多くは自然に排除されますが、感染した状態が続いたり、繰り返し感染したりすることで前がん病変になり、さらにその一部ががんになります。

子宮頸がんワクチンは、HPV感染を防ぐワクチンです。ワクチンの接種により子宮頸がんの80%以上は予防されるという研究結果が出ています。日本を除く先進諸国ではワクチンの接種率増加に伴い、前がん病変や子宮頸がんの発生率が大きく減少しています。初めての性交渉を経験する前にワクチンを接種すると予防効果が高くなります。

小学校6年～高校1年相当の女の子は、定期接種の対象となるため無料で接種できます。当院では4価ワクチンを使用しており、期間をあけて3回接種をします。

長岡市に住民票のある方は長岡市の子ども・子育て課へ問い合わせ、予診票を郵送してもらい、その後お電話にてご予約をお願いします。

子宮頸がんワクチンや副反応について詳しく知りたい方は、お気軽にご相談ください。

子宮頸がんワクチンの情報については下記もご参照ください。

「小学校6年～高校1年相当 女の子と保護者の方へ大切なお知らせ（詳細版）」

（引用元：厚生労働省サイト）

「啓発ハガキ 小児科と外来小児科最終完成版」（引用元：みんなパピ！サイト）

